

第19回 稲門建築会特別功労賞(業績)

とし お 中村 敏男 (苗 S31)

元 a+u 編集長(初代)

表彰理由

中村敏男氏は、1958年『近代建築』編集部に入社して当時初期段階にあったグループ・メタボリズムの初の特集を 編集担当(1960年11月号)した後、鹿島出版会に移籍してSD選書を企画。更に1970年には日英併記の世界的規模の建築 雑誌『a+u』の初代編集長となり、当時新進建築家だったシーザー・ペリ、ノーマン・フォスター等をごく初期に特 集紹介するなど、歴史的慧眼に裏打ちされた多くの問題提起的書籍を発刊し、現代の日本および海外の建築文化を活 性化させてきた。一方、西欧諸国の特に近代初期の重要文献を和訳して日本に翻訳紹介したことも、日本における近 代建築の理解と咀嚼、深化に多大な貢献であった。

中村氏の業績、見識には国際的な評価も高く、89年アメリカ建築家協会名誉会員、90年英国王立建築家協会名誉会 員に選ばれ、91年、プリツカー賞の審査員となり、9年間、三期に渡って審査員をつとめられた。96年AIA名誉賞等を 受賞するなど世界的評価の高さに比べ、国内ではその重要性が十分、認識されてこないまま、今日も、近代建築理論 の研究に余念のない姿勢は、いかにも早稲田人らしい清々しさである。

これから育っていく早稲田建築の人材の目標としてふさわしい国際人として稲門建築会特別功労賞に推薦申し上げ る次第です。

(推薦者 長谷見 雄二)

略歴

東京・王子生まれ

1958年 『近代建築』編集部、初めてのメタボリズム・グループ特集号(60年11月)

1963年 鹿島出版会、SD選書を企画発刊

1970年 「a+u社」を設立し、翌71年発刊より取締役編集長(95年まで)。

1989年 アメリカ建築家協会名誉会員

1991年 プリツカー賞審査員(2000年まで)

1996年 AIA名誉賞受賞

2010年 日本建築学会『建築雑誌』顧問(2011年まで)

主な翻訳

66年、G.F.チャドウィック「ジョセフ・パクストンの生涯」(Space Modulator,No.24,日本板硝子)

67年、ピーター・コリンズ「近代建築思潮」(『国際建築』美術出版社にて翻訳掲載)。

69年、ハンス・マリア・ウィンケラー『バウハウス』(田中正雄、横山正と共訳、造形社刊)。

82年~3年、スティーヴン・ベイリー『建築からインダストリアル・デザインまで、1900-

1960』の全訳掲載(「Art Vivant」西武美術館)。

2003年、ケネス・フランプトン『現代建築史』(青土社)

2006年、アンソニー・ヴィトラー『歪んだ建築空間』(青土社刊)

2006年、ピーター・ブランデル・ジョーンズ『モダニズム建築』(風土社刊)

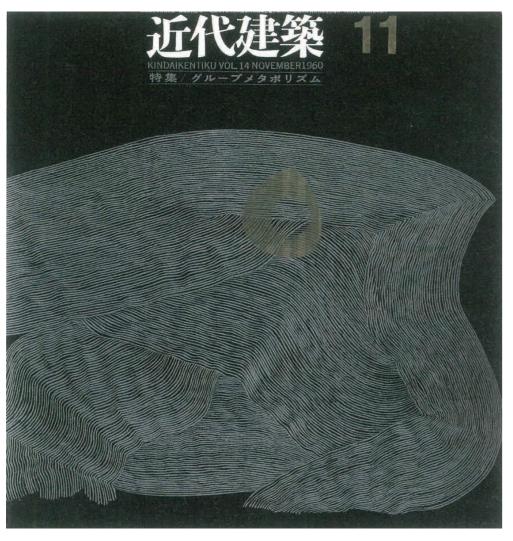
2007年、Toshio Nakamura編 "Glass House" (YKK AP刊、The Monacelli Press 2007)

そのほか『a+u』誌上では、ケネス・フランプトン「ジョン・ヘイダック論」、

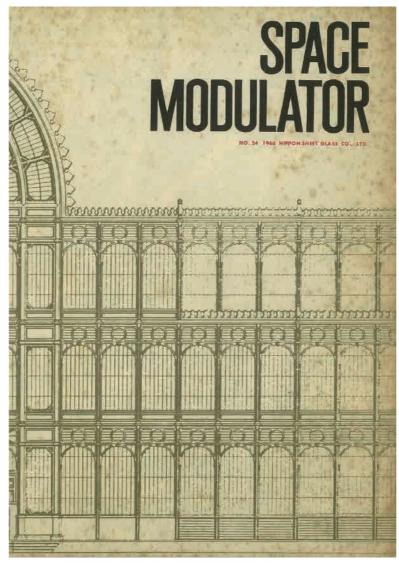
ジョン・ヘイダック「時間から空間へ」(75年5月)。コーリン・ロウ「透明性 I」(74年7月)等、

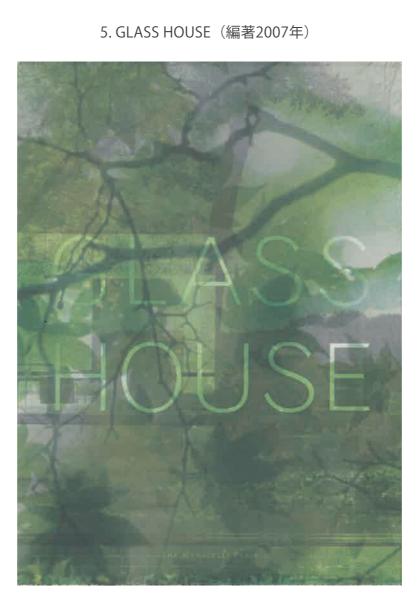
小論文の翻訳多数

1. 近代建築メタボリズム特集(1960年11月号)

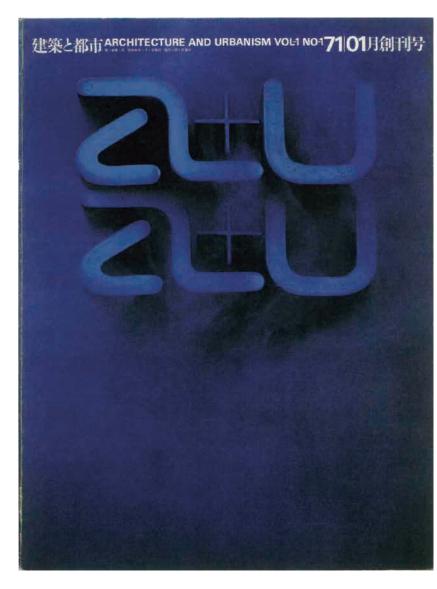




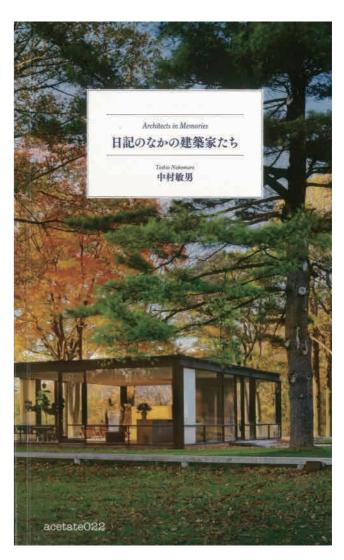




3. a+u創刊号(1971年1月)



6. 日記の中の建築家たち(acetate2015年)



4. ポストモダニズムの建築言語(a+u1978年10月臨時増刊号)

